素足

二十三回生　佐怒賀（片山）　弘子

降りたるや置き去られしやひと一人美瑛の丘にバスを見送る

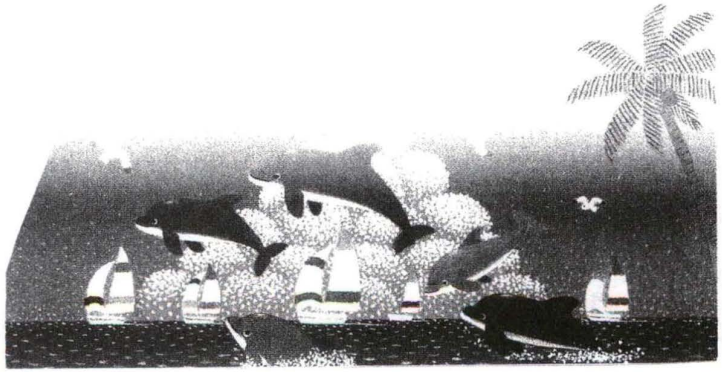
かつて君スキューバーダイビングに来し海よパラオの青さを透徹と言う

たびたびにわが夢にくる〈母〉のいてうまく眠れない〈私〉がいる

われを成すみずのおもさを思うとき母もう在らぬ耳鳴りはじむ

〈弘子さん、明かりを消して〉と孫翼エゴという語にはしゃぎているぞ

ワイキキビーチ砂にめり込む素足もてわれの輪郭うすれていくよ

やわらかな月の光を呼びとめてhulaのポーズの手籠にしまう

ま青なる空つかまんと背伸びする素足になりて後半の生